

キバチ類の被害防除技術に関する調査

平成 11 年度～ 13 年度（国補システム）

佐野 明

1 キバチ類の材内期間生存率とその変動要因の解析

1999 年 6-7 月に、スギ生立木の幹に網をかけ、ニホンキバチのメス成虫を入れて、産卵させた（強制産卵処理）。ニホンキバチの菌のうから分離した *Amylostereum* 属菌を蔓延させた爪楊枝を、1999 年 10 月 5 日にスギ生立木の幹に接種した（接種処理）。強制産卵処理木および接種処理木を 1999 年 11 月に伐倒し、林内に放置した。2000 年 7 月にこれら処理木を割材して、材辺を採取し、菌を分離した。

その結果、いずれの処理木からも *Amylostereum* 属菌が分離された。強制産卵木では、産卵孔と材変色は確認できたが、孵化幼虫は確認できなかった。

伐倒前（生立木である時）に産卵された木では、幼虫は成育できないが、*Amylostereum* 属菌が「利用できる形」で長く残り、次世代以降のキバチにとっても利用可能な繁殖源となることが示唆された。従って、このような（伐倒前に菌が接種された）木は、どのような季節に伐倒されたとしても、キバチの繁殖源となる可能性がある。

2 産卵誘導による効率的な防除技術の検討

1999 年 7 月に、間伐をすでに実施されているスギ林、ヒノキ林各 1 林分において、各 5 本の生立木を伐倒、放置した。2000 年 5 月に伐倒木を網室に搬入し、脱出成虫数を調査した。脱出成虫数が少なく、資料は不十分であるが、成虫脱出期に少数木を間伐することにより、それらへ産卵誘導できることが示唆された（表 - 1）。

表 - 1 . 各処理木からのキバチ類脱出成虫数の比較

試験区	ニホンキバチ		オナガキバチ		
	オス	メス	オス	メス	
尾鷲市 (スギ)	1999 年 3 月伐倒木	0	0	0	0
	1999 年 7 月伐倒木	7	0	0	0
海山町 (ヒノキ)	1998 年 5 月伐倒木	0	0	0	0
	1999 年 7 月伐倒木	10	3	1	1

*長さ約 1.2m に玉切った材 20 本からの脱出成虫数

3 キバチ類によるスギ・ヒノキ伐根の利用様式の解析

1998 年に間伐されたスギ林およびヒノキ林各 1 林分において、2000 年の成虫脱出期終了後に脱出孔にマーキングした（1999 年の脱出孔もマーク済み）。2001 年の成虫脱出期終了後に割材し、キイロホソナガクチキムシの脱出孔と区別した上で、キバチ類の脱出成虫数の年次変化を調査する。